

カラマツの香りと共に

高松伸幸さん(38)

長野県安曇野市

いいもんだ スローライフ

北アルプスの山々を望む長野県安曇野市。のどかな田園地帯の一面に、元証券マンの高松伸幸さん(38)が経営する「高松建築工房」がある。事務所内にはカラマツの香りが立ち込め、大きな窓は映画館のスクリーンのように名峰を映し出す。「高層ビルがひしめく都会とは大違い。外を見るだけで気分転換出来ます」と笑顔がこぼれる。

和歌山市生まれ。奈良県内の私立大を卒業後、91年に東京都内の証券会社に入った。「華やかなイメージにひかれた」。だが、バブル経済がはじけた。仕事に追われ、都会での生活に息苦しさも感じた。「仕事は嫌じゃなかった。でも続ける自信がなかった」。あこがれた東京生活は2年余で終わった。

退職後、大阪府内のログハウス販売会社の社員募集が目に留まった。学生時代からスキーや山登りなどが好きで「いつかログハウスに住みたい」という願望があった。「ログハウスを建てる別荘地に足を運ぶ仕事なら、都会からも離れられる」と考えた。

大阪で暮らし、長野県や岐阜県などの避暑地を休みなく回った。合間に2級建築士などの資格を取得。忙しかったが、不思議とストレスを感じなかった。ただ、生活の拠点を田舎に移したくなった。「好きな場所で暮らし、自由な立場でお客さんの希望に沿いたい」。独立を決心した。長野県に決めたのは「別荘地が多



く、小学生のころから家族でスキーをした思い出もあった」からだ。98年7月に開業。「最初の半年間は収入がほとんどなかった」。仕事がなく、暇つぶしに映画館に行ったことも。前の会社で知り合った人たちに売り込み、図面の清書など下請けの業務を受けながら人脈を広げ、仕事を増やしていった。

元証券マン 都会生活に疲れ

長年の願望「ログハウス造り」の道へ

3年後の01年夏。知り合いの建築関係者に紹介されて、初めて設計を手がけた。「時間はかかったけど、成長していく自分を感じた」と話す。友人からは「半年もたない」とか「かわれた」。しかし、顧客は着実に増え、担当物件は20件に達する。今ではログハウスに加え、木造住宅全般も手掛ける。忙しいが、証券マンでは得られなかった充実感がある。「これからは本番。自然に囲まれ、自分が思うように出来る仕事が楽しんです」。力強く言い切った。

【藤原章博、写真も】



建設中のログハウスを前に、笑顔を見せる高松さん